国際化の最前線から

「在外教育施設」を活用した自治体の国際化推進① ―日本人教師の活躍―

(公財)海外子女教育振興財団理事長　綿引　宏行

海外子女教育振興財団（JOES）にはおもに２つの使命があります。１つは、海外で学ぶ日本の子どもたちが安心して教育を受けられるように支えること。２つ目は、自治体から派遣される教師の赴任中・帰国後の活動を支援し、在外教育施設（世界各地に日本人学校 94 校および補習授業校 224 校など）や各自治体における日本型教育のグローバル化に貢献することです。

昨年、「在外教育施設における教育の振興に関する法律」が成立し、将来のグローバル人材になり得る海外子女の学びを一層飛躍させる大きな第一歩になりました。

この法律が成立した背景には、世界に貢献できる日本人育成を目指す「外なるグローバル化」と在日外国人と共に各地域の活性化を目指す「内なるグローバル化」という２つの視点があります。

各自治体からの派遣教師が増えればグローバル的視野を学んだ帰国教師も増えます。帰国教師が海外経験を活かして子どもたちと向き合うことで２つの「グローバル化」は一層推進されるはずです。

なお、文部科学省と総務省が 2021 年から 22 年にかけて行った「在外教育施設に派遣された教師に係る派遣効果に関する調査・分析」では、派遣経験が多文化・多言語環境における指導能力やカリキュラムマネジメント能力など、教師の資質能力向上につながることが示されています。

一方、この法律では義務教育対象外の幼児教育や日本語が十分に修得できていない子どもへの支援は次回改訂までの検討項目となっています。異次元の少子化対策を考えるうえで、在日外国人の幼児教育のグローバル化や日本語支援体制の充実は必須と考えます。

今後、それらも支援対象となるべく改正法を成立させることで、すべての子どもが安心して学べる環境を整備したいと思います。世界で学ぶ子ども同士が学び合い、絆を深め合えるようになれば、国内外双方における包摂的社会のリーダー育成につながることが期待されます。それを継続発展させていくことが将来的な目標です。

また近年、世界各地で幼児教育の重要性が叫ばれていますが、JOES では「アフリカの現地幼児教育施設と在外教育施設との交流活動」を進めています。オンラインを含めた交流を通して互いの文化や教育を学び合っていこうというものです。

ケニアの Eagles Kindergarten で授業を行うフランクフルト日本人学校幼稚部の知野美穂先生

私は「世界に貢献できる日本人育成」の鍵は「教育の質向上」にあると確信しています。在外教育施設における各自治体からの派遣教師と海外に戻った JET 卒業生、帰国教師と現役 JET 生が未来を見据え連携することで道は拓かれると思います。

在外教育施設を起点に国際交流の幅が広がれば、自治体の国際化も各分野でさらに進んでいくに違いありません。

湖北省黄岡市外国語学校オンライン交流（高知東高等学校）

高齢中国帰国者への訪問（高知東高等学校）

現地で学んだ経験を帰国後の実践に

高知県教育委員会事務局高等学校振興課勤務
（元上海日本人学校浦東校教諭）
尾﨑　靖司（高知県派遣）

「高知に還元できる何かを持って帰る！」と思い赴任しました。以前から地方の生徒であっても海外を身近に感じられる場を創りたいと考えていましたが、派遣されてその思いは強まりました。

上海日本人学校は現地校交流がさかんで、生徒たちがジェスチャーやイラスト・漢字などを使い一生懸命にコミュニケーションを取ろうとする姿に「交流」が世界平和の鍵になると痛感しました。

帰国後、県立高知西高校と上海外国語大学附属外国語学校東校との姉妹校提携を実現、高知東高校においても日中友好協会などの協力を得て、中国各地の現地校と交流事業を展開しています。

また、上海で知り合った方から「国際交流基金」を紹介してもらい、そのサポート事業を受け、湖北省黄岡市外国語学校とオンラインで交流をしています。生徒たちは交流することの喜びを知ったのか、高知在住の中国人大学生と餃子パーティーを開催したりして積極的に取り組んでいました。

さらに、高知観光のワンデイツアーを自主的に企画し、中国語の字幕付きで動画を作って YouTube にアップしたりもしています。

そんな折、高知にいる中国帰国者のことを考え始めました。未来に向かう日中交流も大切ですが、「歴史に翻弄された在留邦人の存在は後世に語り継がれなければならない」と思い、その方たちとの交流を通して交流に深みをもたせようと考えていたところでした。私は異動になりましたが、後任の先生たちがこの交流を引き継いでくれています。

現在在籍する「高等学校振興課」は中山間地域の教育振興を所管する部署ですが、高知の人口は減少傾向にあります。中山間地域の郡部では生徒もかなり少ない状態です。そのため、県外から生徒を呼び込み地域の学校を活性化するように取り組む「高知みらい留学」を上海で学んできたことを生かしつつ展開しています。

派遣教師の皆さんには現地で何かをつかんで、それを各自の地元に大いにまいてほしいと願っています。

高知東高校
高知ワンデイツアー前編
（日中高校生対話協働プログラム）

後編

プロフィール

綿引　宏行（わたびき　ひろゆき）
1957 年、東京生まれ。旧東京海上火災保険（株）（現・東京海上日動火災保険（株））に入社。米国子会社の社長時代は NY 教育審議会副会長も務めた。常務取締役退任後、東京海上日動 HRA 社長として人材育成・組織開発に取り組む。2020 年から現職。